

学校経営 ビジョン	学校教育目標の実現に向け、「対話」を軸に「つながり」を大切に した教育活動 を推進します。 1 子どもたち一人一人が夢をもち、実現に向けてなかまとともに学びあう教育活動を推進します。(学び合う集団、保小連携、小中一貫教育) 2 家庭及び地域との連携・協働により、地域コミュニティの核としての学校づくりを推進します。(地域とともにある学校、コミュニティ・スクール、キャリア教育) 3 「チーム細野小」として、職員相互の資質向上と効率的な学校運営を推進します。(資質向上実行プラン、働き方改革、事務機能強化)
--------------	--

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値 目標等	具体的取組	自己評価		結果の考察・分析及び改善策等
				取組別	総合	
知 育	■重点目標 進んで学ぶ子 →基礎・基本の定着と学力向上 ■手段 1 算数科指導方法工夫改善、 ICT等の効果的な活用 2 図書館教育・読み聞かせの 推進	1について ▶ 全国学テ、みやざき 学テ、NRT各平均 以上 ▶ 単元テスト到達率 80以上	1について ○ 重点支援指定校・課題解決型授業推進 校として、「主体的・対話的で深い学び」 の研究推進 ○ レベルアップタイムや家庭学習での活 用推進	3	3	1について ▶ 単元テスト到達率80以上→ほぼすべての学級 ○ 重点支援指定を授業力改善の好機とし、チーム管理職のつなぎの指 導の充実を図り、学力向上の取組を推進している。 ○ 教師の言語量を精選し、学び合いの時間を図っている。 ○ 下位層の単元末の学力定着対策や読解力や活用力を高めるレベルア ップタイムを家庭学習ともリンクさせながら充実を図る必要がある。
		2について ▶ 平均図書貸出数80 冊/年(現状値116冊)	2について ○ 委員会活動や地域との連携による読書 の推進	3		
徳 育	■重点目標 思いやりのある子 →落ち着いた学校の雰囲気づく り →いじめは絶対に許さないとい う集団づくり ■手段 1 基本的な生活習慣の定着 2 特別の教科道徳の研究とい じめ対応策の充実	1について ▶ 立腰90% (現状値84) ▶ 鉛筆持ち方90% (現状値78)	1について ○ 立腰・挨拶・返事・鉛筆持ち方につい て、必要性を自認させる取組の実施(集 会、ボランティア)	2	3	1について ▶ 立腰→84% ▶鉛筆持ち方→78% ○ 『ふれあい登校日』の中学生と合同の挨拶運動により、大きな挨拶や 返事ができる児童が増えてきている。 ○ 授業中の立腰と鉛筆の持ち方の100%を目指し常時指導を徹底図る 必要がある。 2について ▶ いじめ認知解消率→100% ○ 道徳の授業を中心に、課題を自分の問題として、とらえ考えさせる 授業の充実が図られている。 ○ いじめ事案も数件発生したが、早期で組織的対応を行い解消することができた。 ○ 人権擁護委員との連携を図った「人権教室」を全学年で実施するこ とができた。次年度も継続して実施を図る必要がある。
		2について ▶ いじめ認知解消 100%(現状値100)	2について ○ 年間指導計画の修正(重点指導内容の整理) ○ 全校道徳参観日、いのちの教育週間の充実 ○ いじめ対応・対策の機能的な組織と体制づ くり	3		
体 育	■重点目標 たくましい子 → 体力向上 ■手段 1 体力向上プランの工夫・改善 2 むし歯の治療率の向上	1について ▶ 握力Tスコア全学年 50(現状値53)	1について ○ 新体カテストの結果に対応したプラン の見直しと重点取組事項(握力)への対策強化	3	3	1について ▶ 握力Tスコア全学年50→53 ○ 全職員の指導で、全体的に運動能力の向上が図られている。特に重点項目の握力に ついて、体育の授業だけでなく、日常から能力を高める取組を行い、効果を出している。 ○ 体力の2極化傾向への手立ても、個別に講じる必要がある。 2について ▶ むし歯治療率→73% ○ 治療の進まない家庭が固定化しているため、個別の働きかけを強化している。 ○ 治療率の伸びに対し保有率が横ばいであることを踏まえ、教職員・ 保護者へのフッ化物洗口導入への理解を図る必要がある。
		2について ▶ むし歯治療率 90%(現状値73)	2について ○ 学校歯科医と連携した歯磨き指導の徹 底と治療勧告の継続	2		
食 育	■重点目標 しっかり食べる子 → 健康の保持・増進 ■手段 1 全校無欠席運動の推進 2 食への正しい理解と適切な食	1について ▶ 全校無欠席日10日 2について ▶ 朝食摂取率90% (現状値84)	1について ○ 全校無欠席運動の推進 2について ○ PTAと連携した早寝・早起き・朝ご飯 運動の推奨	2	2	1について ▶ 全校無欠席日2日 ○ 登校をしる児童が数名いるものの、長期の欠席者はない。 2について ▶ 朝食摂取率→84% ○ 栄養も考慮した朝食摂取率を高めていく必要がある。
そ の 他	■重点目標 教職員の働きやすい 環境づくり ■手段 1 職員のキャリアプランに基 づく人材育成 2 教職員の働き方改革の推進	2について ▶ 月45時間以上の超 過勤務0人 (現状値2)	1について ○ 教職員評価制度を生かしたフィードバック ○ 経営参画意識を高める校務分掌の推進 2について ○ 出退勤時刻の適切な把握 ○ 選尺と集中による業務改善(教員業務の見直し)	3	3	1について ○ 一人一人の状況を把握し、適切な指導助言に努める必要がある。 2 について ▶ 月45時間以上の超過勤務→2人 ○ 月80時間を超過する職員はいない。特に、教頭・事務の業務に ついては業務見直しを行ったことで、減少傾向にある。 ○ 月45時間以上の超過勤務者が数名いる。引き続き教職員の働き方 改革として、業務改善及び意識改革に取り組む必要がある。

次年度の方向性について の校長所見	○ 本校の最重要課題である学力向上については、教職員一人一人の指導力向上と組織的な取組強化を図ることで、主体的・対話的で深い学びの実現をめざします。 ○ 德育・体育・食育に関する取組については、学校からの効果的な 双方向 の情報発信に努めることで、家庭教育・地域教育との連携強化をめざします。
----------------------	--